

実体経済と為替変動

黒田インターナショナル

黒田 毅

実体経済の規模は、GDP における指標において記され、為替は、それにおいて世界の同等の価値を与える。これらは経済主義における現実が、自国経済における総生産と為替価値における標準化した指標が判断を可能とする。

他方においては、資本の投資における異なる現実が存在する。巨大資本は、経済の所有を有するのである。

これらはマネーにおける国際基準と判断が可能であるということである。これらは経済至上主義における統一判断として存在する。

実体経済は、その技術レベルにおいて、未来を予測できる。未来の創造は必ず新しい技術において存在するのである。

資本主義における所有の容認は、資本と生産という現実を乖離する。

為替は、世界における統一した、貨幣経済を与え、その変動は国家の有する資産価値を変動させる。

自由経済システムは、その資本が、投資価値においてその変動する株式と為替その他への資金の流入を行う。また生産は、新規技術において市場を牽引する。

マネーゲームは現実であり、企業と共に世界の創造を有するのである。

経済の拡大は、資本の流入を得る。世界の中心は、常に資本の流入を得るのである。

これはマネーにおける現実の予測は、経済より、その真実を知ることができるという仮説である。